

2025年度 第2回

精神障害にも対応した地域包括ケアシステム協議部会

日時：2026年2月12日（木）14時30分～16時00分

場所：中央区文化センター11階

会議次第

1. 開会

2. 協議

議題1：令和7年度の神戸市の主な取り組み

- ・こころのサポーター養成研修
- ・入院者訪問支援事業
- ・ホームページ進捗報告(公開)
- ・精神障害者の地域移行・地域定着の推進に関する協議

議題2：神戸市の「にも包括」推進にむけたビジョンの作成について

- ・ビジョン【全体像】
- ・柱3：当事者や家族が効率よく活用できる、また自己決定できる情報発信
- ・柱4：当事者と家族、支援者等への総合的なサポート
- ・柱5：支い合えるネットワークづくり

4. 閉会

資料

- | | |
|-------|----------------------|
| 資料1 | 神戸市の「にも包括」に関する取組状況 |
| 資料2 | 神戸市の「にも包括」推進に向けたビジョン |
| 参考資料1 | 委員名簿、関係要綱・要領 |

令和7年度「にも包括」の取組状況報告

1. こころのサポーター養成研修

(柱1: 精神障害への正しい理解の啓発及び差別の解消)

こころの健康や精神障害に関する理解を深め、身近な人のこころの不調に気づき、適切に声をかけ、話を聴く力を学ぶことができる研修会を市民向けに加え、令和7年度からは、申込があった企業・団体に講師と市職員が出張して研修を行う出張型研修、および神戸市職員向け研修を実施した。

(1) 全体実績

R6年度	実施回数:12回、認定者数:436名
R7年度	実施回数:20回(うち市民向け11回、出張型8回、市職員向け1回)、認定者数:660名

※前年度からの増加率としては、全体の1.5倍増。

(2) R7年度実績内訳

① 認定者の属性・傾向

・年代別 (市民向け、出張型、市職員向けの合計)

年代	20歳未満	20歳以上 30歳未満	30歳以上 40歳未満	40歳以上 50歳未満	50歳以上 60歳未満	60歳以上 70歳未満	70歳以上 80歳未満	80歳以上	不明・ 無回答
割合	1.8%	5.6%	9.8%	17.7%	29.8%	18.6%	8.9%	1.4%	6.2%

※受講者性別を見ると、市民向けでは女性が75%を占めたが、出張型では女性50%、男性50%であった。

・所属 (市民向け、出張型、市職員向けの合計)

所属	企業・ 団体	学生	行政	医療 従事者	障害福祉 サービス 等従事者	介護 従事者	その他	不明
割合	34.7%	3.5%	8.5%	3.8%	6.5%	4.8%	25.6%	12.6%

② 内訳

・市民向け

認定者数:455名

※全会場が、申し込み時点で満席。参加率は80%

・出張型

実施団体数:8団体(申込上限団体:8団体)

認定者数:168名

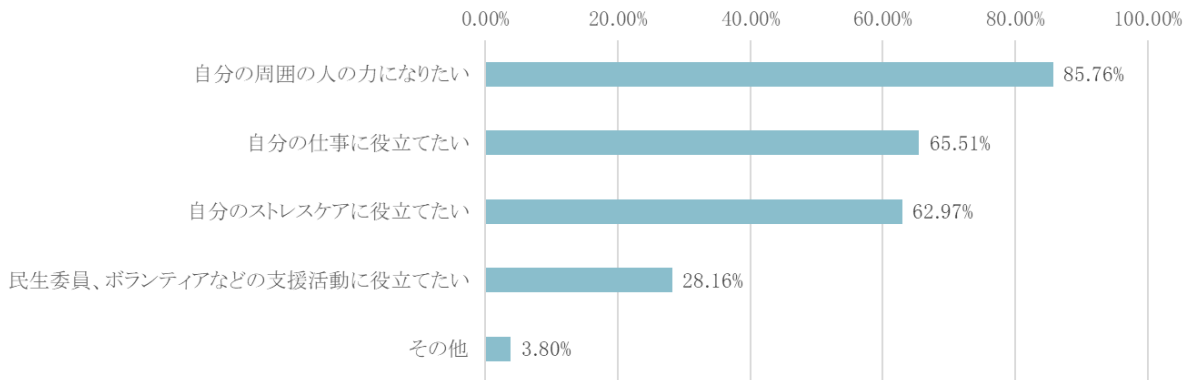
※企業・団体については、民間企業、福祉関連団体、家族会 等

・市職員向け

認定者数:37名

※参加者の所属については、福祉、保健、税、総務、住宅等多岐にわたる

(3)受講動機



(4)実施にあたっての受講者からの声

- ・回復はそれぞれ異なる、希望や夢を達成していくためのプロセスであるということが心に残りました。
- ・こころの病気の種類を聞いて、誤解している部分があったので気づけて良かった。「この人は〇〇病だから」ではなく人それぞれというポイントを大切に忘れずにしたいと思います。
- ・相手をよく知り、その立場に立って話を聴くことの大切さを勉強でき大変有意義でした。さらに深めていく研修があれば参加したいですし、役に立てることがあれば取り組んでいきたいと思いました。
- ・誰かから相談を受ける際、つい解決策を提示しなければと思うばかり、自分の意見を押し付けてしまいがちであったのですが、大事なのは本人の感情をとにかく聞くこと、相手を理解すること、またそこから適切な支援へとつなげることだということ学びました。
- ・こころは一人でケアする事よりも職場全体、チームとして同僚の支えが本当に必要と感じました。

2. 入院者訪問支援事業

(柱3: 当事者や家族が効率よく活用できる、また自己決定できる情報発信)

市長同意による医療保護入院のような家族との交流がない患者が、医療機関外との交流が途絶え、社会からの孤立することのないよう、入院者訪問支援員が、患者本人の希望により、精神科病院を訪問し本人の話を丁寧に聴くとともに、必要な情報提供等を行う。

(1)対象者

市長同意による医療保護入院者であって、本事業による支援を希望する方

(2)令和6年度実施状況

①令和7年度訪問支援員養成研修

参加者数:47名(うち姫路会場:26名、三田会場:21名)

②支援員登録者

65名(R6年度:21名、R7年度:44名)

③訪問(令和6年11月開始)

兵庫県下派遣済数:20件(うち神戸市7件) 【令和8年1月31日現在】

3. 精神障害者の地域移行・地域定着の推進に関する協議

【柱5: 支い合えるネットワークづくり】

地域移行・地域定着推進の観点から、圏域横断的な課題抽出・ネットワーク構築を図ることを目的として実施した。

・開催実績

会議名	開催日	参加人数	分野別内訳
検討会	5月19日	46名	医療9名、福祉22名、介護3名、保健12名
	1月23日(※)	29名	医療6名、福祉13名、保健10名
連携会議	2月20日(予定)	未定	医療、福祉、当事者、保健(予定)

【検討会(年2回)】

地域移行・地域定着に必要なテーマをもとに当事者や関係機関が課題を抽出し、共有をはかる

【連携会議(年1回)】

検討会で協議して、でてきた課題について具体的にどういった取り組みができるかなどより多くの当事者や関係機関で意見交換を行う

(※)第2回検討会議では令和7年第1回当部会で出た意見をもとに検討を行った。

4. 神戸市ホームページの改訂による精神保健福祉に関する情報発信

【柱3: 当事者や家族が効率よく活用できる、また自己決定できる情報発信】

地域での生活を支援する制度やサービス、相談窓口は、医療、保健、福祉など様々な分野に点在し、当事者、家族、さらには支援者においても必要な情報がわかりにくいという課題があったため、ホームページの改訂に向けたヒアリング及びワーキングを実施し、改訂を行った。

(1)ヒアリング・ワーキング実施状況

- ・当事者、家族、支援者等へのヒアリング:4回
- ・ホームページ改訂ワーキング:1回 参加者:11名

(2)HP全体像(2025年2月公開)

精神保健福祉・医療機関情報

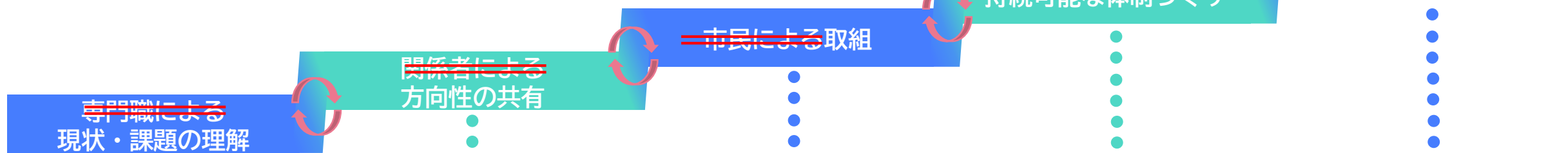
<https://www.city.kobe.lg.jp/a00685/nimohokatsu/nimo.html>

目次	当事者・ご家族向け情報	医療・福祉・その他の制度を、目的別・手段別に提示 ▶体調を整える(精神科医療機関情報) ▶地域で生活する ▶地域で働く ▶ピアサポーター情報 ▶ご家族の方向け情報 ▶精神科病院入院中の方向け情報
	支援者向け情報	各種相談窓口や支援・制度情報をまとめて掲載
	「にも包括」について知る	「にも包括」への理解に関する情報を掲載
	精神障害について正しく理解しよう	精神障害に対する知識と理解に関する情報を発信 ▶こころのサポーター養成研修 ▶ゲートキーパー養成研修
	みんなで考える(協議の場)	「協議の場」の取組状況などを発信

「にも包括構築」のステップと目指す姿(ビジョン)

柱1:精神障害への正しい理解の啓発及び差別の解消

地域共生社会の実現

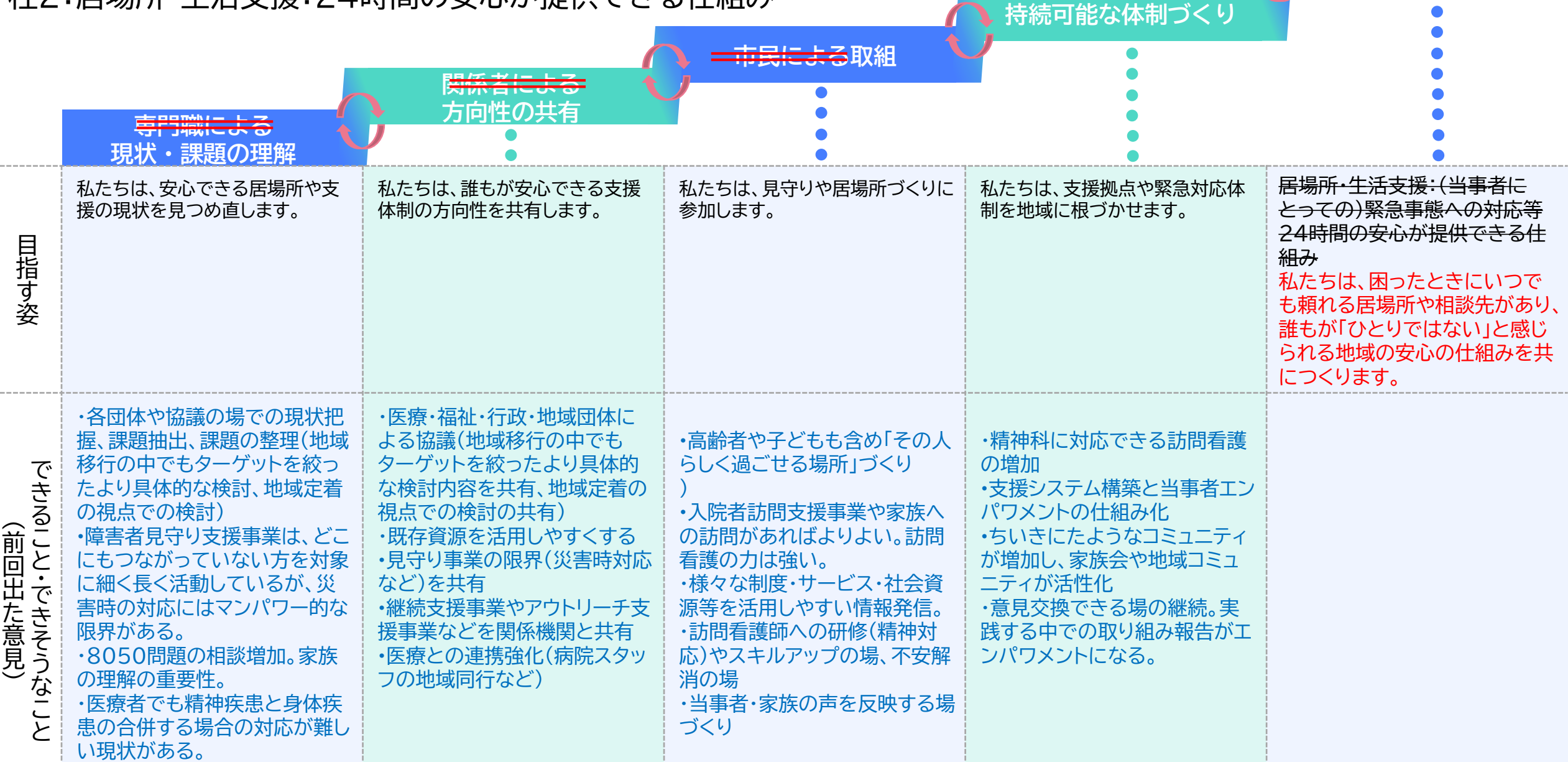


目指す姿	<p>私たちは、精神障害について正しく理解し、誤解や偏見をなくす努力を始めます。</p>	<p>私たちは、地域での啓発のあり方を話し合い、共通の理解を育てます。</p>	<p>私たちは、地域での対話や学びの場を自らつくります。</p>	<p>私たちは、啓発活動を継続的に実行する仕組みを整えます。</p>	<p>精神障害への正しい理解の啓発及び差別の解消 私たちは、精神障害について理解を深め、互いを尊重しあい、誰もが安心して生きられる地域を共につくります。</p>
できること・できないこと (前回出た意見)	<ul style="list-style-type: none"> ・協議の場(区精神障害者支援地域協議会やにも包括部会)での課題抽出 ・精神保健福祉ボランティア養成講座を行うが、活動につなげることが課題。ボランティア活動の方向性について検討 ・8050問題の相談が増えている。家族の理解が重要。 ・医療者でも精神疾患と身体疾患の合併する場合の対応が難しい現状がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・協議の場(区精神障害者支援地域協議会やにも包括部会)での課題や啓発の必要性について共有 ・支援者・従事者むけの研修会・学習会 ・家族の理解促進や家族支援の必要性を共有し、方針を検討 ・病院や訪問看護等での現状や課題の共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・こころのサポーター養成研修(市民向け・企業団体向け) ・精神保健福祉ボランティア養成講座をより身近に参加できる形に。 ・認知症サポーター養成研修 ・KOBEピアサポーターによる当事者・家族向け相談会 ・当事者の声を反映する場づくり ・様々な場所で取り組む家族セミナーや勉強会、家族教室等、家族が精神疾患への正しい理解や適切な関わり方について学ぶことができる機会づくり ・患者(当事者)への疾患教育や入院中の患者家族が学ぶ機会、入院者 ・企業等への継続的な周知や、勤労者の実態(疾患や障害を持ちながら働く)を周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・啓発を継続的に実行する仕組み ・事業者・支援者への研修 ・実践報告や、取り組んでみてよかった事例を共有 ・活躍する当事者を紹介する仕組みづくり 	

「にも包括構築」のステップと目指す姿(ビジョン)

柱2:居場所・生活支援:24時間の安心が提供できる仕組み

地域共生社会の実現



「にも包括構築」のステップと目指す姿(ビジョン) (案)

柱3: 当事者や家族が効率よく活用できる、また自己決定できる情報発信

地域共生社会の実現



「にも包括構築」のステップと目指す姿(ビジョン) (案)

柱4: 当事者と家族、支援者等への総合的なサポート

地域共生社会の実現

	現状・課題の理解	方向性の共有	取組	持続可能な体制づくり	地域共生社会の実現
目指す姿	私たちは、支援する人・される人すべての疲労や孤立に気づきます。	私たちは、支援者・家族・当事者の役割と支え合いの形を話し合います。	私たちは、支え合いの場に参加し、声を届けます。	私たちは、支援者のケアや評価制度を制度化します。	当事者と周囲の疲労、家族、支援者等への総合的なサポート。皆の共生と健康が重要。 私たちは、当事者・家族・支援者それぞれの心身の健康を大切にしながら、互いを尊重し合い、支え合います。
ドゥキメニシユ・ドゥキメニシユ					

「にも包括構築」のステップと目指す姿(ビジョン) (案)

柱5: 支え合えるネットワークづくり

地域共生社会の実現

	現状・課題の理解	方向性の共有	取組	持続可能な体制づくり	地域共生社会の実現
目指す姿	私たちは、支援者同士のつながりの現状を見直します。	私たちは、連携のルールや仕組みを共に設計します。	私たちは、地域の中でつながりを広げます。	私たちは、連携の仕組みをICTや協議会で支えます。	既存のサポートシステムを支援者が相互に使い、支え合えるネットワークづくり 私たちは、立場を越えてつながり、既存の資源を互いに活かしながら、地域全体で支えあうネットワークを築きます。
仕組みづくり					

「にも包括構築」のステップと目指す姿(ビジョン)【全体像】

地域共生社会の実現

持続可能な体制づくり

市民による取組

~~関係者による~~
方向性の共有

~~専門職による~~
現状・課題の理解

柱1	私たちは、精神障害について正しく理解し、誤解や偏見をなくす努力を始めます。	私たちは、地域での啓発のあり方を話し合い、共通の理解を育てます。	私たちは、地域での対話や学びの場を自らつくります。	私たちは、啓発活動を継続的に見える仕組みを整えます。	精神障害への正しい理解の啓発及び差別の解消 私たちは、精神障害について理解を深め、互いを尊重しあい、誰もが安心して生きられる地域を共につくります。
柱2	私たちは、安心できる居場所や支援の現状を見つめ直します。	私たちは、誰もが安心できる支援体制の方向性を共有します。	私たちは、見守りや居場所づくりに参加します。	私たちは、支援拠点や緊急対応体制を地域に根づかせます。	居場所・生活支援:(当事者にとっての)緊急事態への対応等24時間の安心が提供できる仕組み 私たちは、困ったときにいつでも頼れる居場所や相談先があり、誰もが「ひとりではない」と感じられる地域の安心の仕組みを共につくります。
柱3	私たちは、情報の届きにくさや制度の複雑さを理解します。	私たちは、情報発信の方法や媒体について協議します。	私たちは、必要な情報を互いに伝えます。	私たちは、情報発信の仕組みを更新・維持します。	保健、福祉、行政その他を、当事者や家族が効率よく活用できる、また自己決定できる情報発信 私たちは、必要な情報をみんなで届けあい、自分らしい選択を大切に出来る地域を、共に育てていきます。
柱4	私たちは、支援する人・される人すべての疲労や孤立に気づきます。	私たちは、支援者・家族・当事者の役割と支え合いの形を話し合います。	私たちは、支え合いの場に参加し、声を届けます。	私たちは、支援者のケアや評価制度を制度化します。	当事者と周囲の疲労、家族、支援者等への総合的なサポート。皆の共生と健康が重要。 私たちは、当事者・家族・支援者それぞれの心身の健康を大切にしながら、互いを尊重し合い、支え合います。
柱5	私たちは、支援者同士のつながりの現状を見直します。	私たちは、連携のルールや仕組みを共に設計します。	私たちは、地域の中でつながりを広げます。	私たちは、連携の仕組みをICTや協議会で支えます。	既存のサポートシステムを支援者が相互に使い、支え合えるネットワークづくり 私たちは、立場を越えてつながり、既存の資源を互いに活かしあいながら、地域全体で支えあうネットワークを築きます。